

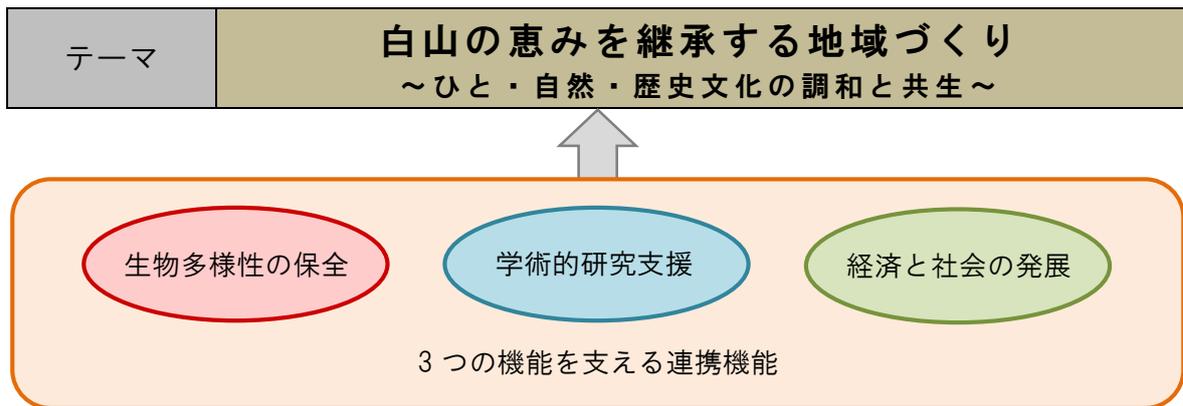
4. 管理運営の基本構想

4.1 全体テーマ

白山では多様な自然環境が育まれているとともに、古くより多くの人々の信仰を集めてきました。地域住民は白山ユネスコエコパークにおける自然の恵み(生態系サービス^{※8})を「白山の恵み」と捉えており、白山に対する感謝の念を抱くとともに、白山の自然に適応した生活や文化を営んできました。

このことから、本計画のテーマは「白山の恵みを継承する地域づくり～ひと・自然・歴史文化の調和と共生～」とします。「生物多様性の保全」、「学術的研究支援」、「経済と社会の発展」の3つの機能が互いにバランスを保ち、効果的に機能を発揮するために、「核心地域」、「緩衝地域」、「移行地域」の3つのゾーニングの役割や特徴を意識しながら、白山の豊かな自然を守るとともに、地域の持続可能な発展を図ります。

また、テーマの実現に向け、白山という共通のシンボルを有する環白山地域の多様な関係者の連携を推進し、地域が主体となった白山ユネスコエコパークの運営を目指します。



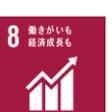
白山の麓に暮らす子どもたち

※8 生態系サービス：食料や水の供給、気候の安定等、自然(生物多様性)から得られる恵みのこと。

4.2 目的と方針

本計画は、これまでの白山ユネスコエコパークの登録目的に沿った管理運営の取り組みを継承し、地域住民等が主体となった持続可能な地域づくりに貢献することを目的に必要な方針等を定めるものです。

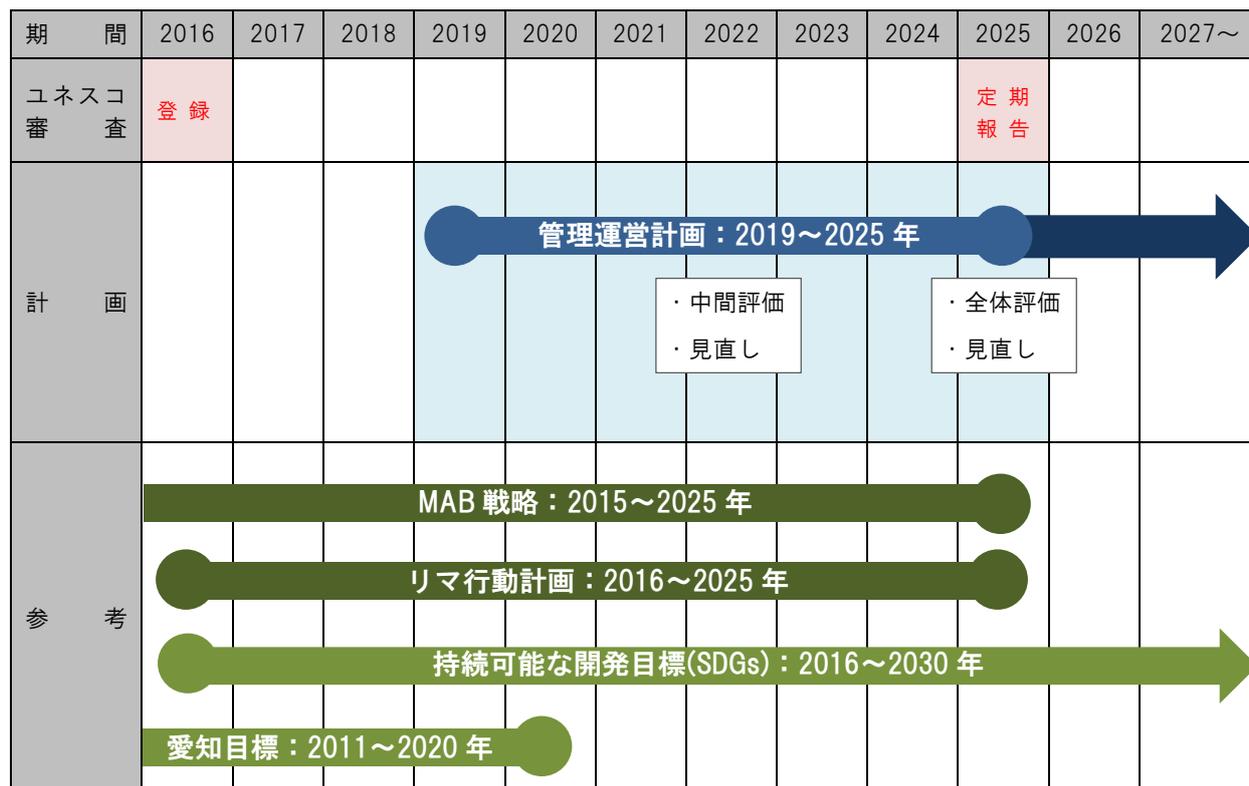
白山ユネスコエコパークの3つの機能を維持向上させるための基本方針、また、複数自治体にまたがる管理運営上の特性をふまえ、3つの機能を支える連携機能を独自に位置づけた重点方針で構成されます。

管理運営の方針		持続可能な開発目標 (SDGs)	愛知目標
基本方針	1. 白山の恵みを守る 【生物多様性の保全の機能】	   	目標 1 目標 5 目標 9 目標 1 1 目標 1 2 目標 1 5
	2. 白山の恵みを知る 【学術的研究支援の機能】	    	目標 1 目標 2 目標 5 目標 9 目標 1 9
	3. 白山の恵みを活かす 【経済と社会の発展の機能】	     	目標 1 目標 4 目標 6 目標 7 目標 1 8
重点方針	環白山地域の プラットフォームの構築 【3つの機能を支える連携機能】		目標 1 目標 2 0

4.3 計画期間

ユネスコエコパークでは、10年毎にユネスコへの定期報告が求められており、白山ユネスコエコパークの次回の定期報告は2025年を予定しています。

本計画は、2016年3月の拡張登録をふまえ、10年毎のユネスコへの定期報告と連動させ、計画期間を2019年から2025年として適宜中間評価や見直しを行っていきます。



計画期間の管理

4.4 管理運営の方針

(1)基本方針 1

白山の恵みを守る 【生物多様性の保全の機能】

白山ユネスコエコパークの核心地域と緩衝地域は、環境省の白山国立公園、林野庁の白山森林生態系保護地域及び白山山系緑の回廊とそれに接続する各種保護林のいずれかに指定又は設定されており、長期的な保全の対象となっています。

また、白山では日本国内の分布の西限又は南限とする高山植物が多くみられ、山頂部では積雪の多寡や地形の形成に応じた多様な高山植物群落をみることが出来るほか、ブナ、ダケカンバ等の自然林が広く分布し、ツキノワグマ、ニホンカモシカ等の大型ほ乳類、イヌワシ等の大型猛禽類といった保護を要する動植物が生息する地域であり、多様な自然環境が育まれています。

この豊かで多様な自然環境を将来にわたり保全するとともに、人間の営みにより長く維持されてきた二次的自然^{※9}を守り、自然資源の持続可能な利用を実現するための保全活動を行い、自然環境の素晴らしさ、大切さを理解し、自然を守るために主体的に行動していく意識の醸成を図ります。

管理運営の施策	①生態系と種の保存の推進
	②生態的リスクへの対応強化
	③開発等への対応と二次的自然環境の保全の推進
	④環境保全意識の向上



鷲ヶ岳から望む白山(高鷲エリア)



白山と高山植物

※9 二次的自然：生産や生活のために定期的、周期的に人間の手が加わり、人手が加えられることにより維持されてきた自然のこと。水田やため池、雑木林、草原等がこれにあたる。

(2)基本方針 2

白山の恵みを知る 【学術的研究支援の機能】

白山ユネスコエコパークの自然環境や生息動物、地域の歴史文化等の学術的調査・研究は、多様な自然環境、生物多様性の保護・管理や地域の社会的発展に大きく関わることであり、地域の持続可能な発展のためには必要不可欠です。

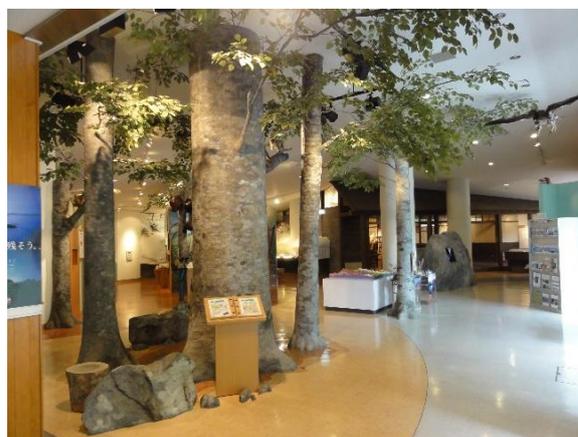
そのため、環白山地域をフィールドに、多様な教育機関・研究機関と連携し、地域の自然環境や動植物の生息・生育を明らかにするためのモニタリングや歴史文化調査の充実に努めるとともに、白山信仰をはじめとする地域の歴史文化に関する調査研究を行い、生態系サービスの評価等を通じて地域の課題解決に役立てます。

また、持続可能な開発のための教育(E S D)^{※10}に資する様々な教育活動を推進し、次世代を担う子どもたちの環境保全意識の向上を図ります。

管理運営の施策	⑤学術的調査研究の推進
	⑥モニタリングの推進
	⑦E S Dの推進



ESD 活動(池ヶ原湿原のヨシ刈り)
(勝山エリア)



中宮展示館(尾口・中宮エリア)

※10 持続可能な開発のための教育(E S D)：地域から世界に至る多様な課題を解決し、持続可能な社会づくりの担い手を育成する教育・活動のこと。Education for Sustainable Developmentの略。

(3)基本方針 3

白山の恵みを活かす
【経済と社会の発展の機能】

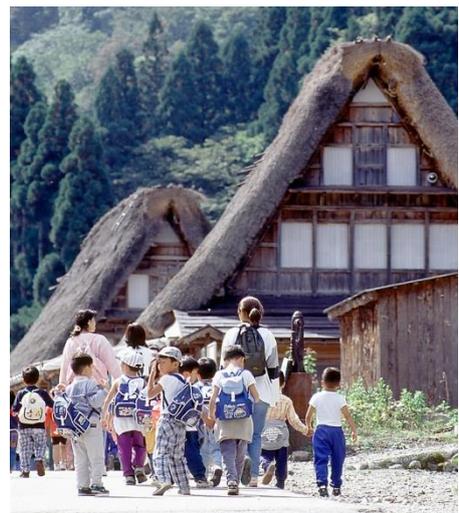
白山ユネスコエコパークに暮らす人々は、白山の恵みを活かし、それに適応した生活を営んできました。環白山地域に根づいた伝統的な生業や生活様式、食文化等の保全・伝承を推進し、地域の将来を担う人材の育成、地域資源を活用したブランディング等の事業展開により、現実的かつ持続可能な経済と社会の発展を目指します。

また、近年増加する交流人口に対する適切なインフラの対応や、地域住民や来訪者に対して安全性の確保を進めるとともに、環境と経済活動のバランスに配慮したハード面とソフト面での基盤づくりに努めます。

管理運営の施策	⑧伝統文化の保全と伝承の推進
	⑨地域住民の意識向上と人材育成の充実
	⑩地域資源の活用による経済活動の持続
	⑪交流インフラの充実
	⑫危機管理対策の推進



自然体験活動(大野エリア)



相倉合掌造り集落での暮らし
(五箇山エリア)

(4)重点方針

環白山地域のプラットフォームの構築 【3つの機能を支える連携機能】

環白山地域の情報共有やロゴマークを活用した普及啓発活動等の共同事業により、白山ユネスコエコパークを通じて環白山地域が連携した事業展開を図ります。

さらに、環白山地域だけではなく、日本ユネスコエコパークの登録地の一員として、他のユネスコエコパーク登録地域や関係機関との連携や学び合いを推進するとともに、SDGs等の国際目標の達成に貢献します。

また、世界文化遺産(南砺市、白川村)や世界農業遺産(郡上市)、日本ジオパーク(白山市、勝山市)等との連携による包括的な取り組みにより、相補効果や相乗効果の向上に努めます。

管理運営の施策	①環白山地域の連携
	②国内外のユネスコエコパーク等との連携と国際貢献



白山ユネスコエコパーク
拡張登録の決定



日本ユネスコエコパークネットワーク
(JBRN)大会

4.5 管理運営の体系

管理運営の方針を基に、14の管理運営の施策を設定し、各施策を有機的につなげていきます。

